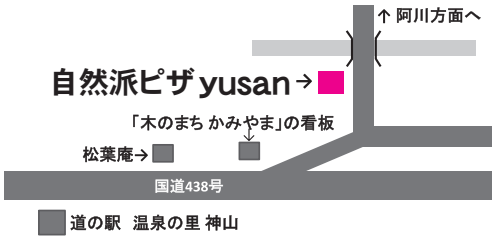
移住交流支援センターだより

地域おこし協力隊
橋本　泰子
グリーンバレーが取り組む移住交流支援事業について、詳しくお伝えします。

今春から神山町に石窯で焼くピザ屋さん「自然派ピザyusan」がオープンします！ピザ屋さんを開業する塩田さんご家族（大阪より移住）にインタビューしました。

塩田ルカさん（33歳）・舞さん（33歳）
とわくん（7歳、神領小学校1年生）
あかりちゃん（4歳、4月より下分保育所）
種人くん（1歳）



ご自宅兼お店：神山町西青井夫

◆移住のきっかけは？

「石窯で焼くピザ屋さんをオープンしたい」「こどもたちに自然豊かな場所で育ってほしい」と移住を考え始めました。移住先を徳島県で探したところ、たまたまインターネットで神山に出会いました。神山に実際に訪れた際に、どうしてもここに住みたいという思いが募り、再度神山を訪問。その際に今の家に出会いました。よく落書きで「こんな家に住みたいなぁ」「こんなところでお店をはじめたいなぁ」と描いていたのですが、そのイメージにぴったり重なる家でした。

◆神山での暮らしはいかがですか？

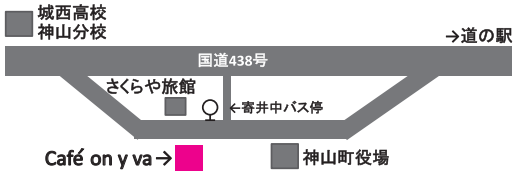
両親は移住に賛成してくれたのですが、こどもたちにとって、どうだったのか、とても心配していました。引っ越してきてすぐ、長男が神領小学校に通い始めたのですが、転校してくる長男のことをみんながとても楽しみに待ってくれていたようで、「とわくん、とわくん」と大歓迎を受けました。小学校の雰囲気もとても良く、先生方が本当に心で接してくれている気がして、とても安心しました。また、移住者の方たちが地域の方たちとの関わりをとても大事にしようとしているなぁと思いました。

◆これからのこと

4月半ばから4月下旬にお店のオープンを目指して、家の改装、開店準備に奔走しています。ただ、一番の目標だったことは、こどもに「神山に引っ越してきて良かった」と思ってもらえることでした。転校して2日目に「大阪に帰りたい？」と聞いてみたところ、「神山がいい！」と答えてくれたので、既に目標が達成されてしまいました。今後は家族とも、地域の方ともみんなで楽しく暮らせ「塩田さんが引っ越してきて良かった」と思ってもらえるといいなぁと思います。神山でこうして暮らせていること自体がとても嬉しく、これからのワクワク感に包まれています。

昨年12月に南仏家庭料理のレストラン「Café on y va（カフェオニヴァ）」がオープンしました！オニヴァとは「Let's go」という意味。2013年8月に京都から移住して来たカフェオニヴァのオーナー&シェフ長谷川さんに神山の暮らしをインタビューしました。

左：長谷川浩代さん(44)、右：國本量平さん(32)
（神山塾卒）



ご自宅兼お店：神山町神領字西野間

※Café on y va
営業時間　12：00～22：00　定休日　水・木曜日
電話　050－2024－4918

■移住のきっかけは？

料理の勉強をしようと、1998年から18年余り行った南フランスで、あるフランス人の農場民宿に出会いました。そこで大きな影響を受け、東京での仕事を続けながら、その後も毎年、夏場の3ヶ月間は南フランスに行き、料理の仕事をしてきました。いつか、そんな場をつくりたいと思っていたところ、神山の人々に魅了され移住を決めた友人の斎藤郁子さん（2012年移住）が、現在のお店となる家を購入したことをきっかけに、オニヴァ開店への道のりが始まりました。移住者の受け入れを多く行っているこの町の開放的な雰囲気に、ここなら次のステップにチャレンジできるかな、と思いました。

■神山での暮らしはいかがですか？

お店のオープンの時期が予定よりおずれ込んでしまったのですが、その時間が出来ました。京都や東京では味わえなかった時間を堪能できたことが、結果として良かったと今では思っています。お店は思った以上に順調で、地元の人や、移住者や、神山を訪れた人たちが交流できる場をつくることが目的だったのですが、実際にそういう場になってきている気がしています。

■これからのこと

お店で出しているパンもコーヒー豆も、お店で生けられている花も、神山の人との繋がりの中で提供されています。食材となる野菜も積極的に地元のものを使っていきたいと思っています。「ちょっとオニヴァに行こうかな」と気軽に立ち寄ってもらえる、そして、お腹の空腹を満たすだけではなく、心も満たされる、そんなお店になったらいいなぁと思っています。

※毎月最後の金曜日には、その日訪れた人みんなが一斉に食卓につき、一緒に時間と空間と食事を共有する「みんなでごはん」を開催中。